

非化石価値取引について

2025年5月28日

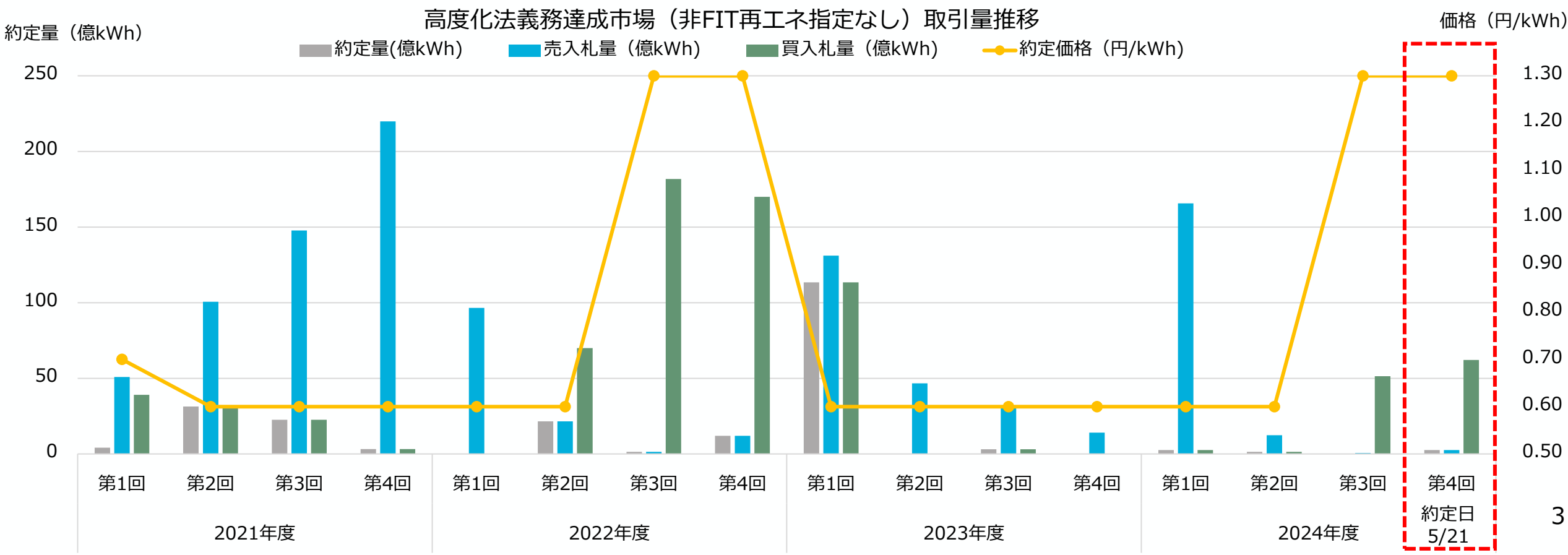
資源エネルギー庁

第4回オークション結果

第4回オークション結果

高度化法義務達成市場（非FIT再エネ指定なし）

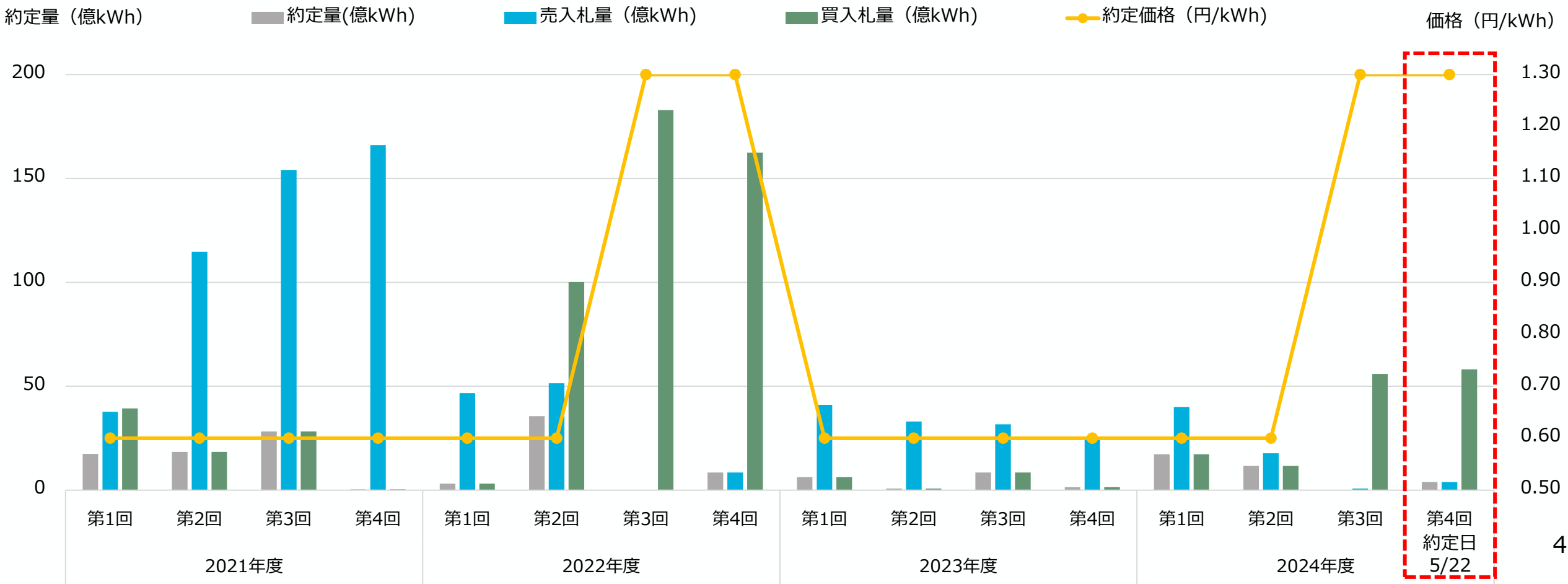
- 第4回オークションは第3回と同様、売入札量（約3億kWh）が極端に少ない状態が継続したため、大半が未約定となった。なお、買入札量（約62億kWh）のほぼ全量が代替調達の条件を満たす価格（1.3円/kWh）で入札していた。



高度化法義務達成市場（非FIT再エネ指定あり）

- 第4回オークションは第3回と同様、売入札量（約4億kWh）が極端に少ない状態が継続したため、大半が未約定となった。なお、買入札量（約58億kWh）のほぼ全量が代替調達の条件を満たす価格（1.3円/kWh）で入札していた。

高度化法義務達成市場（非FIT再エネ指定あり）取引量推移



【参考】代替調達の適用について

(3) 代替調達の適用について

第102回 制度検討作業部会
(2025年4月23日) 資料5

①代替調達の適用について

- 前述のとおり、アンケート結果等から推計すると、2024年度の想定需給バランスは1を下回る可能性がある。
- FIT証書による代替調達手段の適用については、市場全体の需給バランスが1を下回ると見通せることと過去のTFの議論で整理されている。確実に、需給バランスが1を下回るかを明言することは難しいが、状況が明らかになった後に代替調達の適用を判断するのでは、タイミングが遅きに失し、小売電気事業者の義務達成に大きな影響を与えることが想定される。このため、上述のアンケート結果を元に、代替調達を認めることとしてはどうか。
- その際、代替調達の適用については、過去のTFで議論されているように、第3回非FITオークションの約定結果等を踏まえ、第4回非FITオークション（再エネ指定あり、なし）において、必要調達量を1.3円/kWhで入札することを条件に、認めることとしてはどうか。

2024年度 FITおよび非FITオークション スケジュール

	2024年							2025年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
非FITオークション			# 1			# 2			# 3			# 4	
FITオークション			# 1			# 2			# 3			# 4	
代替調達実施判断													
事業者アンケート													

必要調達量を1.3円/kWhで
入札することが条件

代替調達は第4回（最終）
オークションでのみ実施可能

★ アンケート結果から需給バランスを
試算し実施を判断

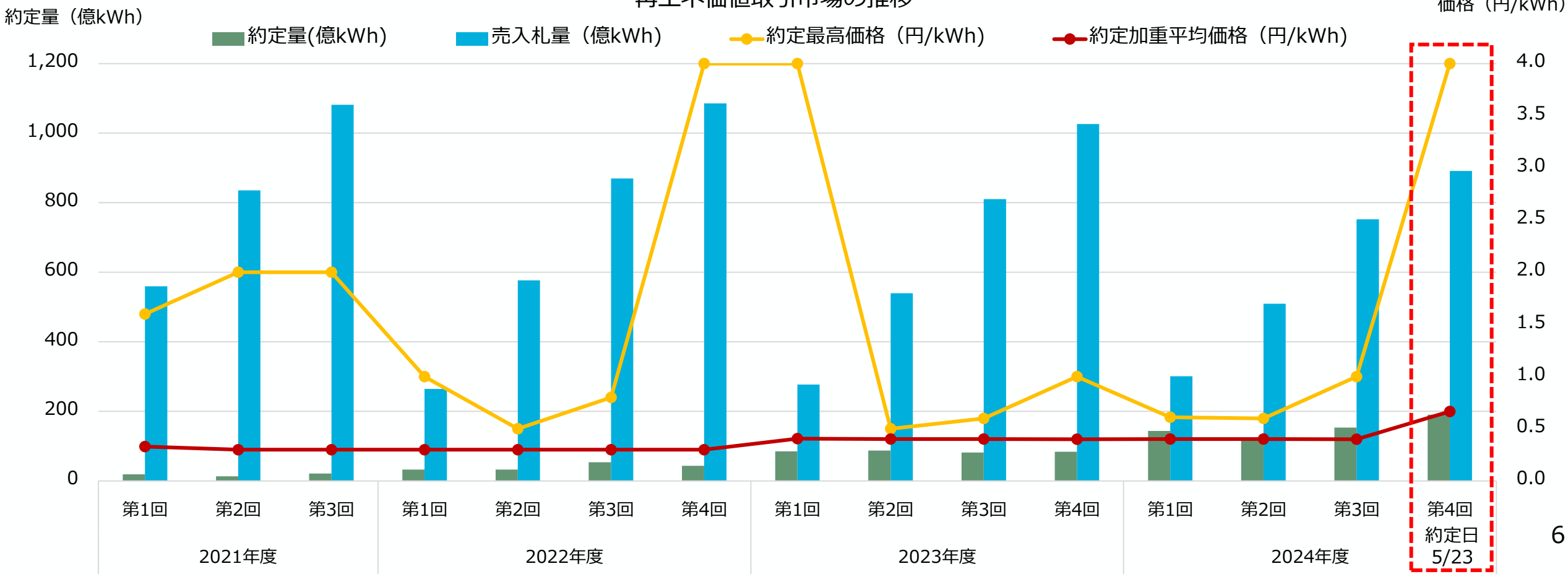
再エネ価値取引市場（FIT）

- 代替調達を認めたことにより、約定量（約190億kWh※1）および約定加重平均価格（0.67円/kWh）は過去最高となったが、売入札量が買入札量を上回るという状況はこれまでと変わらず、**代替調達以外の市場取引への影響は限定的であったと言えるのでは無いか※2**。

※1 代替調達の条件（1.30円/kWh以上で入札）を満たす約定量は、約56億kWhであった。

※2 代替調達以外の買入札も全量が約定しているため、影響は限定的であったと評価。

再エネ価値取引市場の推移



【参考】代替調達による市場への影響（当初想定）

第102回 制度検討作業部会
(2025年4月23日) 資料5

③代替調達によるFIT市場への影響

- FIT市場の需給バランスは21年11月の初回オークションから常に供給が需要を大きく上回っており、FIT証書供出量の急激な減少や需要の大幅な増加は現時点で見込まれていないため、今後もしばらくは同様の需給バランスが続くと想定される。
- また、最終オークションにおけるFIT証書の売残りは約800億kWhと推計される。一定の仮定の下で、非FIT証書の需給ひっ迫が生じた場合における代替調達の想定必要量を試算すると、最大で、約100億kWh。そのため、FIT市場への影響は限定的だと評価している。

